

皆生海岸一斉清掃



6月24日(日)、皆生・サニーテニス前にて、もはや恒例の感のある第6回皆生海岸一斉清掃が行われた。同清掃は今回から新たに弓ヶ浜展望駐車場前海岸、日吉津海岸の2会場を加え、実に1300人超の参加者を数えた。

わが西部青年中央会からは土井会長を団長に、景副会長、21地球委員会の近岡・入澤・後藤・長谷川・花園・萬田の各委員が参加。真夏をおもわせる太陽の下、9時半に作業は開始された。土井会長の鮮やかな黄色のトレーナーに24時間テレビを連想し、加山&谷村状態でサライを胸の内で口ずさみながらの作業であった。楽しいのか辛いのか判別つかなかった作業も10時半には終了・解散となった。

自生するハマヒルガオ群を縫うように黙々とゴミを拾い集める他のボランティア参加者の姿には、自らも参加しているということを忘れて一種の感動を覚えたが、「ゴミは持ち帰る」という最低限のルールが守られていない現状を目の当たりにして、考えさせられる一日であった。

(21地球：後藤公平)

言わしてごしない Part 1

11年度広報に配属間もないときのこと。「下ネタはどこまでOKですか?」「君は下ネタ書きに中央会に入っただか?君にしか書けん文章があーせんかや?」とは某先輩の金言。芸能ゴシップ誌とハンサムを混同していたために起こった恥ずかしい会話。その後、先輩の言葉を肝に命じ、ハンサムにとどまらずあらゆる場面で後藤公平を表現してきたつもりです。悪い良いではなく、「自分はこうおもう。自分ならこうする。」と相手に伝えたかったからです。一方的な自己主張だったかもしれませんが。他人への配慮を欠く独善的な言動だったかもしれません。事実、叱咤や同調、いろいろな反応がありました。でも、それが実に嬉しかったです。気持ちのストレートなやり取りはとかく軌轢を生みがちですが、逆説的に言えば、人とのつながりをハッキリとかんじることが出来る瞬間を創造するものでした。

そして、今年度2年ぶりの広報。旧来の「聞いてごしない」は「言わしてごしない」にリニューアルしました。執筆者の門戸を広げた結果です。会員ひとりひとりの胸中に去来する疑問、提案、雑感、その他諸々を私たち広報委員会にぶつけて下さい。入会年度の浅い会員、臆することなくどしどし原稿をお寄せ下さい。ただし、唯一の約束事として、出来る限り実名寄稿をお願いします。確かに、書き言葉は話し言葉に比べて誤解を招きやすい側面がありますが、行間にも真意を込めることはいくらでも可能だとおもいます。中央会を理解しようとおもえば、中央会が好きで入ったのなら、まず自分を知ってもらうことから始めるべきではないでしょうか?自分の言葉に責任を持ち、自らの名のもとに表現する。それに対して意見を言ってもらおう。また、時には叱ってもらおう。そういった経験はきっと自身の成長の糧となるはずだとおもいます。

(広報：後藤公平)

※「わしにもちよっこし言わせてみしえやい。」という方を大募集!詳しくは桶村委員長までお問い合わせ下さい。広報委員会一同は、会員の皆様の数多くの寄稿をお待ちしております。

イベント事前告知

会員所属会社及び業界イベント等の事前告知掲載希望者は毎月20日迄に日時(期間)・場所・内容を広報委員長(fax34-7512)まで送信下さい。

(メンバーズ)



のぐち まなぶ
野口 学 O型
株式会社コーポレーションネットワーク 副社長取締役
建設業
〒684-0046 境港市竹内町地255-3
TEL 47-3400 FAX 47-5300
(KT)090-4690-0663 (EM)because@bronze.ocn.ne.jp
H13.07入会 (推薦者)夏山(裕) 伊藤(五)
〈自宅〉西伯郡岸本町大塚314
〒689-4121 S37.9.6 TEL68-3208

(コメント)

この度入会させて頂きました野口と申します。会員の皆様をはじめ諸先輩方は鳥取県西部地区でご活躍の方が多くいらっしゃるとうかがっております。諸先輩方に少しでも近づけるよう頑張っていきたいと思っております。私は建築の仕事一筋にきましたが入会させて頂き、多くの業種のみなさまと交流を深めて勉強させて頂ければ幸いです。諸先輩の皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

8月例会案内

とき 平成13年8月17日(金) 19:00~
ところ ホテルサンルート米子
講師 山本 修 Drams
演題 「私のバンド人生」

8月役員会報告

8月定例役員会が平成13年8月1日(火)、米子食品会館に於て開催された。当日の主な議題は、次の通りです。

- (1) 8、9月例会開催の件
- (2) チビッコトライアスロンの件
- (3) 中小企業団体全国大会参加の件
- (4) その他

※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

天声 猜 語

暑い暑い夏。年度が変わりトライアスロンを終え、中央会の温度も上昇している。私の会社は社員用駐車場と社屋が70m分離れており、片方が山、もう一方が田畑に挟まれた道を歩くようになっている。毎日歩いているうちに楽しみになったことがある。それは農作物の成長である。誤解を招かぬよう補足するが、決して自分の口に入れようとしているわけではない…。キラキラと照りつける太陽、照り返しのきつい日々、土をえぐるような豪雨の後、食物の生命(いのち)の強さに驚き、感動している。このひととき、今では大切な時間となった。ゆっくり歩むことで気づかなかった小さな事柄を見つけることが出来るからだ。私の中で、今年度のスローガン「新世紀、原点への回帰」と重なり合う。上昇中の温度もゆっくりゆっぴり温めて、小さい事柄から大きな事柄まで見つけ育んでいきたいと思う今日この頃である。



第27号 2001.8.

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 岩田慎介 編集責任者 萬田寿夫 印刷所 東京印刷機

雄 飛

ごあいさつ

鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 岩田慎介



第27期会長を務めさせて頂く岩田慎介でございます。自分の器量と照らし合わせこの先1年間を考えますと、期待よりもプレッシャーが勝り、日に日に緊張が増しますが、会員の皆様の御協力のもと「一念天に通ず」の気持ちで、全力で会長職を遂行する決意でございます。どうぞよろしくお願い致します。

我々中小企業を取り巻く環境は、社会・経済・政治・行政等あらゆる面で閉塞感に満ち、大きな転換期を迎えようとしています。

経済においては、金融機関の不良債権処理が不透明な故に、長い不況というトンネルから抜け出せず、デフレスパイラルという得体の知れない化け物に飲み込まれ、企業倒産が相次いでおります。

社会面では教育・環境・少子高齢化問題等への対策、そして男女共同参画社会の推進という今後の大きなテーマもあります。

また行政では、いわゆる三大改革として、19世紀の明治維新・20世紀の戦後改革・21世紀の省庁再編と、世紀に一度の改革があるわけですが、この新世紀の行政改革は、スタートしたばかりであります。国の財政難による地方への圧力は増すばかりで、結果、市町村合併問題も更に身近に迫ってくるでしょう。

私は今年の委員会構成上これらの諸問題を少しでも取り上げて頂ければ、と考慮したつもりです。

又、足元に目を向ければ、極め付けは昨年10月6日の鳥取県西部大震災があります。まさに世紀末の名にふさわしいうちであったように思います。

この様な状況の中、我々企業人は、この21世紀を何としても生き残らねばなりません。この先、各企業で業種を問わず、必ず自然淘汰の嵐が吹き荒れます。この嵐の中で生き残る術は唯一、個性ある企業・個性ある人材の育成と言っても過言ではありません。

さて、会員の皆様、当会が昭和50年設立から今日に至るまでの歴史の中で、「魅力ある人づくり」は常に重要なテーマであったと思っています。ところで当時の諸先輩方はどのような人づくりを目指したのでしょうか?

何事にもそこそこ器用に、そして無難にこなすスマートな人材育成を目指したのでしょうか?私は違うと思います。

「不器用でも、少々アクが強くても、我々会員が直面している課題に積極果敢に取り組み、激論を交わしながらも同じ目標に突き進み明確なひとつの答えをだす」これこそ当会の真髄であると同時に、こんな、個性派集団を目指したのではないのでしょうか?

私は、今年度27年を迎える鳥取県西部中小企業青年中央会の重い伝統と歴史をこのような時代だからこそ今一度原点に帰り見つめ直し、この新世紀を「個性の時代」と位置づけ、個性ある企業、個性ある人材の育成を第一の目標に掲げ、結果、当会が新しい時代のオピニオンリーダーとして地域社会に貢献し、青年経済団体として確固たる地位を築くことができたいと思っております。

親愛なる会員の皆様、OBの皆様、新世紀の当会の船出の舵取りを、微力ではありますが、1年間させて頂きます。どうぞよろしくお願い致します。

REMEMBER THE SPIRIT OF TSC

新世紀、原点への回帰
今見つめなおそう西部青年中央会の心・温故知新

広報紙「ハンサム」掲載記事について

広報委員長 桶村清子

今年度のテーマである「REMEMBER THE SPIRIT OF TSC」をもとに広報委員会としての活動の根幹である「ハンサム」編集を考えた。より充実した「ハンサム」を作り上げるには? 自問自答をくり返し、ひとつの答えを出した。

結果報告だけの広報紙ではもの足りない。一方通行でなくもっと作り手、読み手のコミュニケーションツールとしての要素を足したい。また、経済団体らしくビジネスにつながるそんな要素も足したい。そして以下の新規記事を掲載していくことにした。

「言わしてごしない」

これは会員からの目安箱。青年中央会への意見や会員に知らせたい身近に起こった出来事など掲載。意見交換の場としては是非投稿頂きたい。

「イベントの事前告知」

所属企業に關係する業界内イベントや展示会等を事前に告知

する。ビジネスに繋がる場として会員、OBの方々も有益に使って頂きたい。

「温故知新」

OB企業へ赴き、当時の中央会活動の話を取材。これからの青年中央会活動の活性化の一石としたい。

「年間テーマ」

広報委員会独自で勉強会を行い、有益な情報としてその過程を掲載していく。内容は「知的所有権について」。これからのビジネスにはなくてはならない情報と考えられる。詳しくは各号のハンサムをご一読頂きたい。

今年度の「ハンサム」は会員、そしてOBの方々にご参加頂くことでより活かされる。是非ともご理解頂き、ご活用頂きたいと思う。最後に読み手の方が読みやすいようにと文体を統一し、敬語、尊敬語を略したことをお詫び申し上げます。

新年度副会長・委員長抱負

副会長 浜田一哉

今年度副会長を務めさせて頂くことになりました浜田でございます。政治行政委員会そして青経連を担当致します。昭和35年4月生まれ、牡羊座、血液型はA型。西部青年中央会に入会させていただいてちょうど10年目を迎え、私自身にとっても節目のこの年に副会長の大役を仰せつかったわけですが、今一度ネジを締め直してこの1年ががんばりたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



今年度岩田会長は「REMEMBER THE SPIRIT OF TSC」というテーマを掲げられました。「今一度原点に立ち返って西部青年中央会の心を見つめ直し、また当会のレゾナドール（存在理由）はどこにあるのかを模索しつつ新世紀への道を切り開いて行こう！」との会長の思いをよく咀嚼しながら、私もそうですが会員の皆さん一人一人が激論を交わしていただきたい。そのためには自ら積極的にアプローチをしチャンスをつくる努力をすることが最低限必要と考えます。なにも恥ずかしいことはありませんし遠慮することもありません。疑問な点は率直に聞き、腹を割って自分の考えをぶつける事を試みましょう。きっとそこから人造りの第一歩が始まるのではないのでしょうか。我々は西部青年中央会の同志なのですから…。

政治行政委員会 伊藤五一

本年度、政治行政委員長を務めさせて頂きます伊藤です。よろしくお願ひ致します。

政治行政委員会は、現在西部地域の各市町村及び各団体が勉強会を作り動いている「市町村合併」を、長年勉強されてきた委員会だと聞いています。市町村合併についてほとんど勉強していない私ですが、今まで勉強されて来られた事を踏まえて現実味を帯びてきた

市町村合併について、鳥取県西部地域では色々な合併の組合せが出ていますがその組合せの中、又はそれ以外の組合せで、どのような合併が良いのか、又、本当に合併が良いのかを勉強し、会員皆様にご報告したいと思っております。岩田会長の期待に応え、浜田副会長のもと、委員会メンバーと一緒にやっていきます。1年間よろしくお願い致します。

副会長 前田 真

このたび、きずな・情報メディア両委員会を担当することになりました。まずもって中央会活動の経験の浅い私にこのような修練の場を与えていただきました岩田会長に感謝いたします。

委員会テーマが決まりましてから両委員長と打ち合わせをする中、委員会活動のテーマをどういう切り口で何を目標に活動してゆくか、その方向性は見出し出しておられます。私としてはふたりがメンバーの活発な意見を引き出しつつ何かしらの成果を各会員が持ち帰られるようお手伝いをしたいと思っています。

今までは下から中央会を見ておりましたが、この大任をいただいた今、より高い視点で会の運営に微力ながら尽くしたいと思っています。皆さまの叱咤激励をエネルギーに1年活動したいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



情報メディア委員会 若槻 聡

本年度の情報メディア委員会では「情報技術を身近に使う方法を学ぼう」をメインテーマとし活動いたします。

「IT革命」が声高に叫ばれる現在、それによって社会もまた大きく変わりつつある。」という印象を多くの方が持っていることだと思います。確かに、近年における情報技術の展開には目を見張るものがあり、その社会的重要性も否応なく高まってきております。しかしながら、情報技術の華々しい展開にばかり目を奪われては、社会変容の実態と情報の本質をむしろ見失う恐れがあるのではないかと考えます。そこでインターネット等に代表される先端技術のみに限定することなく、情報とメディアの広義な捉え方をしながらあくまで身近な生活や企業経営の側に視点を据え、情報テクノロジー／メディアがどう絡んで、どう変化していくのかなどについて考察すると共に、情報の有効活用について実践的な方法を学んでいきたいと考えております。

きずな委員会 湯原俊二

第27期、岩田慎介会長より、きずな委員会に与えられた指針は、「我々男性にとって離しては考えられない、深い絆で結ばれているのは女性、その女性の家庭や職場での役割や立場について考える。」でありました。我々委員会メンバーにとって、大変間口の幅が広く、また奥深い指針を頂きました。

そこで、1年間勉強をするにあたり、この指針を絞り込み、きずな委員会の今年度のテーマとして、「企業内女性の理解と戦力化」とさせて頂きます。言うまでもなく、現在、消費の鍵を握るのは女性であります。女性の消費の志向や感性を掴むこと、またそのために会員の会社内で女性社員のアイデア／提言を、如何に生かし、戦力化していくかが問われていると考えます。現場で実践をされている講師を招聘し、会員企業にひとつでも、ふたつでも、具体的な方策を持って帰って頂きたいと思っております。

副会長 岡本康朋

平成13年度、副会長を務めさせて頂く事になりました岡本康朋です。

今年度、岩田会長のテーマ「REMEMBER THE SPIRIT OF TSC」変わりゆく時代の中で、忘れがちな古きよきものを探り、今一度原点に立ち返り勉強して行きたいと思っております。担当は総務委員会（久古雅彦委員長）、緑の下の役割が多い委員会。今年度は委員長と共に行事等、いかに委員会全体に役割分担ができるか。そして、会員の方に楽しんで頂けるか、1年間考えて行きたいと思っております。

私自身、入会して6年、卒会の年に大役を仰せつかり、身の引



総務委員会 久古雅彦

この度、岩田会長のもとで総務委員会委員長を務めさせて頂くことになりました久古です。総務委員会は忙しい委員会というイメージが定着しているのか、会員の方々がともしれば嫌がる委員会ではないかと感じております。しかし、今年は委員会皆で楽しみながら行事を推考、実行して行きたいと考えております。それには、会員全員及び会員家族のご理解とご協力がなければ出来ないと考えております。

岩田会長のテーマ「REMEMBER THE SPIRIT OF TSC」のように自分自身のテーマとして「中央会行事は楽しいから人が集まる」

アスロン皆生大会



一生燃焼 一生感動 一生不悟

野嶋 功

盛大な壮行会で後押しされながら、大会一週間前にして体調を一気に落としてしまいレースに参加することさえできなくなってしまい皆様のご期待(?)にお応えできなかったことに心からお詫び申し上げます。

壮行会では、明るいうちに戻りたいと言っておりましたが、まさかこんな姿で陽の高いうちにゴール周辺を徘徊してしようとは思ってもありませんでした。

14回連続出場が途絶えてしまったわけですが、今回はマーシャルとして参加できたことで選手とは違った視点でレースを体験することができ、ある面新鮮な気持ちで大会を楽しむことができました。また、客観的な立場でレースに参加できたことで今後の大会運営についてのアドバイス、また選手に対してのインフォメーションと非常に多くのことを学ぶことができました。

若手の台頭もあり来年以降の選手生命について一部には危惧する声もありますが、「生涯選手」を目指して老体に鞭打ち精進してまいりますので引き続きご支援よろしくお願い致します。



トライアスロン完走の感想

松岡正高 O B

体力・気力共に燃え尽きましたので、今回をもちまして、青年中央会トライアスロン同好会を休

部します。

思えば、みなさま方の温かい応援のおかげで7回も出場・完走出来たと思います。

将来、体調・気力が回復しましたら、又挑戦したいと思います。その時は、今まで以上の応援よろしくお願い致します。

和田健二 O B



Now printing



拝藤博幸

3ヶ月も前からみんなで集まり、正直当日まで自分もつのか心配でした。でも、回を重ねるごとにひとりひとりに役割が与えられ、ボランティア部会に出るのが楽しくなり、責任を感じられるようになりました。

たった1日のためにこれだけの人が集まり、動く。みんながひとつになり迎えた当日は、初めての参加で選手以上に緊張していたように思います。感動のゴールシーンをいくつも見せつけられ、今度は是非選手として参加したいと思いました。

松江智雄

ボランティア部に配属になり、1回目・2回目と部会を欠席。3回目始めて出席したときは、なんだかカヤの外といった感じでした。しかし、何度か出て行くうちに楽しささえ感じてきました。

当日、自分の担当（飲料配送）を終えたあとはボランティアをしながらゴール風景を観戦。感動！感動！感動！最後に景部長のあいさつときは涙さえもあふれかけました。ぜひ来年もしたいとおもいました。

手島武司

今年始めてトライアスロンボランティアということで、何かとわからなかったことが多かったのですが、やはりゴールしてくる選手皆さんの笑顔を見ると、やってよかったなど実感いたしました。

トライアスロンという競技にあっても、レースに出るといって志がまずあって、実現のためにトレーニングという実践（実学）をつむわけです。私もぜひ自分の人生の手にしたいとおもいました。

第21回全日本トライ

KAIME TRIATHLON



宮崎大介

全3種目を振り返ってみて、一番きつかったのはバイクです。前半ちょっと飛ばし過ぎたのが影響して、途中から空腹でいわゆるガス欠状態になり、体力よりも先に気力をやられる形となりました。岸本のあたりから中山のエイドまでは殆ど記憶がないほどでした。中山に何とか着いて倒れ込む様に座り込み、呆然としていると一人の女の子が突然スポンジに含めた水を頭からかけてくれました。その冷たさと、突然の出来事にはと我に帰り、その後おにぎり3個とコーラを2杯もらい、食事をしながら30分くらい座っていました。その間、始めて自分が前もって立てた目標である「レースを楽しむ」という事を見失っている事に気がきました。これがきっかけで、今までが嘘の様に廻りが良く見え、勿論レースも楽しく、余裕を持って進める事が出来ました。

自分は中山に着くまでは、知らず知らずのうちに自分の世界に入り込み、一人でレースをしていたような気がします。トライアスロンを終えて改めて思ったのは、この完走は自分一人の力じゃ決して出来なかったのだということです。みなさんの声援がものすごい力になり勇気づけられて、無事完走できました。大変有難うございました。



トライアスロンボランティアを体験して

山根宏典

私自身、トライアスロンのボランティアというのは大会当日にするのだと思っていましたが、実際は約1ヶ月前から動かなければ意味が無いのだと、痛感しました。私は、マラソン部に配属されました。看板チェックから始まって、ポスター張り、備品洗い、看板立て等の活動を、させて頂いたのですが、初めてという事もあって、少し戸惑いながらも一生懸命頑張ったつもりです。大会当日は選手の一生涯懸命な姿に感動し、ボランティアをやらせて頂いて心から良かったと思いました。

堀江則夫

今までの私にとってのトライアスロン皆生大会は、正直なところ、道行く先でたまに見かけるだけの夏のイベントのひとつでしかありませんでした。それが本年1月、縁あって本会に入会させていただき、今回、他のボランティアの方と触れ合ってみて、選手の汗と涙をみて、「ありがとう」といわれてみて、自分自身の中で確実に「なにか」が変わりました。立場と思いに相違はあれ、皆一生懸命に無我夢中でそれぞれのゴールにたどり着きました。この感動をきっと私は生涯忘れません。鬼が笑うかもしれないけれど今から来年が楽しみです。

後藤太良

「飛び散る汗、爽やかな風、巻き起こる感動のドラマ」そんな思いで臨んだ皆生トライアスロンでしたが、実際に始めてみると、思っていたイメージが見事に崩され、追い討ちをかけるように暑さとの戦いが待っていました。とにかく辛い1日であったことは確かでしたが、このトライアスロンに参加できて良かったと思いました。

トライアスロンを終えて

長谷川一成



今年には本当に大変な大会でした。まず、4月のレクリエーション例会でのソフトバレーボール大会の試合中、思わず手をついた拍子に右肘を脱臼骨折してしまい、およそ一ヶ月の間ギブスで固定されてしまい、右肘のリハビリからスタートした事。また、一次選考で漏れ、一度不出場通知が来たこともあり、今年は全く諦めてボランティア部に専念する事にし、練習のペースを落とす事になりました。

しかし、5月末、まさに右肘のリハビリ中に補欠補充選考で復活させて頂いた事を知り、急遽断酒モードに入り、練習を復活させました。エグザースで1000~1500メートルを泳ぎ、その後自宅周辺の7~10キロを設定したコースを走る日課をほぼ毎日こなしました。7月に入り、ほとんどバイク練習していない事に不安を覚え、3回ほど大山に登りました。それでも目標体重に到達できなかったため、結局アザラシのような身体で大会当日を迎えてしまいました。スタート前、日野川河口で皆さんの激励を受けた後、海を見詰めて立っていた時、よほど不安げに見えたのか小林さんに「リラックスして楽しんで来い。」と声を掛けて頂き、何か吹っ切れました。

スイムは最初から最後まで集団に巻き込まれてしまい、夢中で泳いだ結果、52分程で再上陸。予定タイムより20分も早い展開に自分でも驚きました。続くバイクは風を切って走るのでもそれ程暑さを感じず、常に水を補給しながらでしたので最初危惧していたよりも楽に感じてしまいました。結果は予定タイムどおり6時間半で終える事が出来ました。

さて、ランは本当に大変でした。とにかくエードのたびに水を被りましたが被るそばから蒸発し炎熱地獄の様相を呈する中、全行程足を持たせるために決めたペース走を必死で心がけました。夕陽ヶ丘では遂に干上がってしまい、干物同然で折り返しました。もう殆んど歩いていてはいたが関節の痛みを耐え、とにかくゴールを目指しました。河端エード、境港の折り返しでは、中央会メンバーの激励を頂き、ホームベースに帰ってきたような安堵感と元気を頂戴し、本当にありがたく、感謝しています。

最後の直線に差し掛かったとき、今日の苦しみもやっと終わるという安堵感と、走りきったと言う達成感と、ゴールで待つ家族や仲間に見える喜びと、そして何より沿道で真っ赤になって応援して下さった皆さんのボランティアの方々への感謝の気持ちで一杯になりました。そう言ったいろいろな思いをかみしめながら700メートルを走りました。最後の200メートルは小林さんと一緒に走りました。一杯飲み上げてきました。

12時間56分44秒でゴール。長い一日を終えました。皆さんのご支援により、今年もまた良い経験をたくさんさせて頂きました。本当にありがとうございました。

き縮まる想いで一杯です。最後の年、論じてすぐ行動を理念に、微力ではありますが1年間精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。

を目標に諸先輩方の知恵を借り、そして当委員会メンバーの行動力を借りながら中央会最後となりますこの1年間を精一杯頑張りたいと思います。どうぞ、1年間皆様方ご理解とご協力をお願い致します。

副会長 武海 章



入会審査をして頂くために訪れた役員会。あの日、役員の皆様のなんと大人に（おっさんに）そして、立派に見えたことでしょうか。（実際、立派な方ばかりでした。）

その中でも、会長・副会長の方々はまさに雲上人の如し、でした。

それにひきかえ我身をふりかえると、なんと未熟なことでしょうか。立派になったのは、本来の活動後の、会員交流と称した不規則な生活リズムで作り出す一連の飲食行動にて貯えられた胴回りの贅肉だけのようです。

そのような私のもったいなくも、岩田会長に請われて今年1年、副会長としてやっていく事となりました。皆様、本当によろしくお願ひいたします。

抱負としては、本来の副会長としての仕事（私なりに考える）をきちんとこなしたいということです。そしてもうひとつは、役員会を今まで以上に正常に機能させる事、その一助が出来ればと思っております。

何を当たり前のことを、と思われるでしょうが、当たり前のことを当たり前にこなすことがやはり何事においても基本だと私は考えます。もちろん、それ以上のことが出来ないということもありますが。

それから私以外の、4名の副会長と共に（助けていただきながら）岩田会長が会長職を全うできます様、支えていきたいと考えます。担当委員会の方々を始め、会員の皆様、重ねてよろしくお願ひいたします。

経営委員会 岩崎康朗

平成13年度、岩田会長のもと、経営委員長を務めさせて頂く事になりました。岩崎康朗と申します。

人間としても、企業人としても未熟で若輩な私ですが、この1年間、自分自身しっかり勉強して必ずや会社に「1年間これだけの事が勉強出来た。」と胸を張って言う事が出来るよう頑張りたいと思います。

さて、今年度経営委員会は「西部青年中央会26年の歴史の中、偉大な先輩経営者から経営におけるスタンス、諸問題をクリアする時の苦労談、又将来のビジョン等を掘り下げてお聞きする。」事を委員会活動の最重要課題とします。そして、その中から我々現会員が吸収し企業活動に反映する事を目的にします。私個人的には先輩経営者から、より人間的な苦労話がお聞き出来ればと考えます。

この1年間、誠心誠意頑張って行きたいと思っておりますので、皆様方の温かいご支援、ご協力を頂きますよう、どうかよろしくお願ひいたします。

Newカマーズ委員会 高田孝志

Newカマーズ委員長に任命され、一番最初に思った事は、やる気と不安の入りまじった、何とも言えない気持ちでした。と言うのも新入会員が、まず配属される委員会がNewカマーズであって、ここでほぼ中央会を見てしまうわけですね。中央会ってこんなものか？と思われるのも嫌ですし、入会して、やる気が無くなってもらっても困る訳です。しかしそんな事ばかり考えていてもいかたありません。幸い最良のスタッフに恵まれ、私自身も入会した時の事を思いだしながら、新入会員のみならず、委員会のみならずと一緒に、中央会について勉強し、大いに語り合いたいと思っております。

副会長 萬田寿夫



この度、岩田会長のもと、副会長を務めさせて頂くこととなりました萬田でございます。入会6年目でこのような大役を務めることとなりチャンスを与えて頂いた岩田会長に感謝すると共にその重責に対しまして身の引きしめる思いで一杯です。

担当委員会は新設のモラル委員会（潮委員長）と広報委員会（桶村委員長）です。

岩田会長が提唱される本年度のテーマ「REMEMBER THE SPIRIT OF TSC」のもとおふたりの委員長とともに、元気一杯しっかりと委員会活動ができますよう、全力で補佐して行きたいと思っております。

平成8年度に入会させて頂き、中央会活動最後の年、私自身、完全燃焼を基軸として甚だ微力ではございますが、今年1年岩田会長の理念が実行できますよう、精一杯頑張らせて行きたいと存じます。どうぞ宜しくお願い致します。

モラル委員会 潮 邦昭

今年1年の抱負、この抽象的なテーマが、私に課せられた1年を象徴しているのではないのでしょうか。モラル、マナー等、誰もがおぼろげながら考え、知っていることではないのでしょうか。しかし、掘り下げて考えると、これほど勉強しがいのあるテーマはないと思います。

老若男女を問わず、様々な分野の方々の意見、提言を1年間かけて委員会でき、年度末には全会員各位にご報告できるよう、努力したいと考えます。脱線あり、激論ありの委員会にしたいと思っております。「REMEMBER THE SPIRIT OF TSC」このメインテーマに沿って21世紀を駆け抜けられる土台を作りたいと考えます。

会長、副会長、及び委員会の方々には、モラル不足の委員長に写っていると思っておりますが、1年後には倫理、道徳には「潮」に聞けといわれるよう努力いたします。1年間、温かく、長い目で楽しみに見守ってください。

広報委員会 桶村清子

この度、岩田会長のもと広報委員長をいたします桶村清子と申します。当会に入って3年目を迎えたばかりの私ではありますが、岩田会長を盛り立てていくよう精一杯頑張る所存です。

委員会運営にあたっては「価値ある情報」「価値ある体験」「価値ある人とのつながり」の三本柱を基本に活動していきたいと考えております。また「こうでなければならぬ」「こうあるべき」という固定観念は取り払い、意見交換・議論をしたいと思っております。未熟な私でございますが宜しくお願い致します。

西部青年中央会 第27回通常総会開催

鳥取県西部中小企業青年中央会 平成13年度通常総会



平成13年7月17日(火) ホテルサンルート米子において、第27回通常総会が開催された。1年間のテーマを「志と実学」として、体当りで務められた土井会長は、「発表会では、会の財産になるものが出来た、嬉しく思う。後は、トライアスロンが残っている。会として世の中に果たす役割がある、全員参加で気を緩めずやりきろう。」ということと「先が分からないから、自分がしっかりとした考え方『志』を持つことが大切。一步踏込んで大人、企業人として目覚めて欲しいと、ずっと念じて頑張ってきた。」と締めくくられた。

総会では北野副会長の議事進行で①平成12年度事業報告、並びに収支決算書承認の件、②平成13年度事業計画、並びに収支予算書(案)承認の件の二議案について審議され、原案通り承認された。続いて、今年度で卒会される8名の会員に卒業証書の授与がおこなわれ、卒会生を代表して蔵本会員が「卒会を機会にこれからも頑張りたい。」と挨拶された。

続いて、皆勤賞16名、精勤賞34名の表彰、並びに今年はすべての委員会が素晴らしい活動であったということで、土井会長が1年間に渡って作成された手作りの資料「志と実学」を額に入れて各委員長とその委員会をサポートした副会長に贈られた。そして、広報委員会が希望していたカメラとデジタルビデオカメラが、土井会長より新広報委員会に贈呈され、桶村新広報委員長から、「これで、会の歴史を刻んで行きたい」と、お礼の挨拶があった。

その後、新入会員へバッジ授与が行われ通常総会を無事終了した。

総会終了後、来賓、OBを招いての懇親会が盛大に開かれた。初めに岩田新会長より「今年度のテーマは人にスポットを当て『REMEMBER THE SPIRIT OF TSC』とし、激論を交わしながら同じ目標に突き進む、個性派集団を目指す。難題が山積みしているこの時代に、勇気と行動力を持って立ち向かう人材の育成、この時代を生き残るための個性と端正を兼ね備えた人材の育成をしていきたい。」という意気込みの伝わって来る挨拶があり、第4代岡田端OB会長並びに、今期から境港商工会議所会頭に就任された足立統一郎OBより来賓祝辞の後、商工中金米子支店支店長宮成様による乾杯で歓談に移った。

皆が少し調子が出てきたところ、会場内が炎天下になった。皆生トライアスロンの壮行会である。松岡OB、和川OB、野島会員、長谷川会員、平成12年度入会の宮崎会員の5名に中島太郎応援団長、前田真副団長(新副会長)のほとんどアドリブの小太鼓だけど力強い激励が送られ、参加者全員で活躍と生還を期し、エールを送った。

最後に、まだまだ余韻の残る中、松田一三OBのご発声による三本締めで懇親会は幕を閉じた。

閉会の後、記するまでもないが、卒会生は宙に舞っていた。

平成13年度県総会

平成13年7月25日(水)「ホテルサンルート米子」に於いて、第27回総会が開催され、西部地区からは58名の参加となった。

総会は、奥森県会長の1年を総括する挨拶から始まり、その後議案審議が行われ、古南新県会長の選出を始め会員の承認によりすべての議案が成立した。

古南県会長の支える新役員として、西部からは岩田副会長の他、理事3名、幹事1名が誕生し、磐石の新年度のスタートとなった。

通常総会閉会后、米子信用金庫常務理事国利一正先生の「最近の金融経済動向と中小企業金融について」と題する記念講演が行われ、ペイオフや不良債権の現状など、現場からのお話を会員が興味深く聞き入っており、その後の質疑応答でも会社運営を真剣に考えている会員からの発言が続いた。

その後、斧谷県中央会会長を始め、黒見境港市長、県商工労働部次長五百川様など多彩な来賓をお招きし懇親会が行われた。

懇親会では、恒例の「県会長の鍵」が奥森直前県会長から古南新県会長へ引き継がれ、中部、東部の会員との久々の交流は大いに盛り上がった。中でも西部青中第10期会長の務められた内海米子信用金庫理事長の、「企業人は『英知』を持って努力していこう!」というお話は印象に残るものであった。

和やかな雰囲気の中、県総会は無事終了した。



特集 KAIKE TRIATHLON

第21回全日本トライアスロン皆生大会を終えて

ボランティア部部長 景 幹雄



暑くて長い1日本当にご苦労さまでした。

21回大会は、中央会全体での取り組みと位置づけて、運営委員会を立ち上げ、部長・部員・AS責任者等これまでの一本釣りではなく各委員会より部員の選出をした、これまで

にない運営方法で望んだ大会でした。新しい試みの中、部長と大半の部員が1年生、それにも増して選挙と大会が重なり、ボランティア不足からのスタートでした。

部員の皆様には、昨年のボランティアへの参加依頼の宛名書きや電話での参加依頼、又、学生ボランティアへの暑さ対策等、昨年以上の仕事をして頂いたおかげで大きな事故もなく大会が終了しました。本当に部員・OBの皆様有難う御座いました。

又、土井会長にはボランティア部の為に青経連へボランティア依頼をして頂き、商工会議所青年部・米子・境J C3団体より多数参加して頂く事が出来、大変助かりました。又、境AS担当の浜さんには、竜ヶ山と折り返しの2つのASを担当して頂き、本当にボランティア部を助けて頂きました。最後に頼れるのは中央会と実感した21回大会でした。

最後に中央会も21世紀最初のトライアスロンへの第一歩を踏み出し、大きな足跡を残しましたが、中央会全体としての取り組み等まだ色々問題が残った大会だったと思います。22回大会は今年以上の会員全員の思いをひとつにして、両足でしっかり立てるよう運営をして頂くをお願いします。

マラソン部部長 後藤秀之



中央会の皆様方、御疲れ様でした!!今年も猛暑で大変でしたね。昨年もかなり暑かったのに、今大会はそれ以上に暑い大会で、リタイヤした選手も多く出ました。

でも中央会の皆様方は本当に元気で、最

後まで良くガンバってやってくれました。ありがとうございます御座居ました。

今大会は、昨年の地震での影響でマラソンコースの変更を余儀なくされ、コース取りも昨年よりは余り良くなかったと思います。

来年22回大会においては、良いコース取りを考えていきたいと思っています。そして又、この不況の中、これだけのことが出来たということを心に思い、これからの個々の仕事に、ガンバって行きましょうネ!!

河端AS感想について

萬田寿夫



「社会のモラルの低下、教育の荒廃を解決すべき21世紀のスタートとし、今こそボランティア活動の汗と涙と感動の素晴らしさが地域づくりに必要と考える。よって今年度、青年中央会は全員参加で総力を挙げて大会の成

功を目指し、運営に協力する。」との土井会長の命を受け、河端ASの責任者として会員45名を中心として運営を行なうことの大役に、その責任の重大さをひしひしと感ぜずにはいられませんでした。当日は10時集合、武海、釜田両副責任者のもとテントの設置、机・椅子の設置を終え、12時頃トップランナーの通過を見届け、多くの選手の姿が見える頃、AS内部も活気付き各ポイントでは選手のゼッケンを確認しながら名前を呼び力の限りエールを送りました。最終の21時30分迄、汗と涙と感動の素晴らしさが河端AS各ポイント随所で見られました。その感動を作り上げるのに尽力いただいた河端水産様、東亜青果様、ライトスタッフ様、久米建設様、そして当日お礼が申し上げられませんでしたので紙面を借りて参加していただいた方々に厚くお礼申し上げます。そしてチャンスを与えて頂いた土井会長、こんな私をサポートして頂いた武海副責任者、釜田副責任者、皆様本当にありがとうございました。

境港AS報告書

浜 義徳



この度は、2度目のAS担当者として余裕をもってに当たりました。ところが、ボランティア部から昨年の2倍以上の距離を受け持たされること、2ヶ所のASを運営するように要請をうけ、受け持ち範囲を

円滑に運営しようと努めましたが、納得できる運営ができなかったことが私の感想です。しかしながら、炎天下の下、20名弱の会員と家族知人の皆様、さらに境港三中生、ケイズ、野村證券、美保基地自衛官、ソロプチミスト、それに一般ボランティアの混成団体でどうか支障なく、乗り切ることができました。AS撤収後はさすがに力が抜け、脱力感が体を包みましたが、ビールが美味しかったのも事実でした。今年度は昨年に比べて疲労がひどく、AS撤収後に本部に行く気力が残っていませんでした。役員の皆様、大変申し訳ありませんでした。最後に当ASに協力していただいた会員及び家族、知人の皆様や協力団体の皆様に感謝の気持ちで一杯です。本当に有難うございました。

16回目のトライアスロン

和田健二OB

今大会ほど、最初から最後まで暑くて苦しかったレースはなかった。

今回で16回目の皆生大会への参加ではあったが、中央会の皆様、そして初めて顔を見るボランティアの方々からのご声援のお陰でなんとか完走をさせていただきました。ほんとうにありがとうございました。

最後のマラソンが中央会の方々のエードステーションがなければ決して私の現在の体力では走り通せないのに、いつも温かいご声援を受けくじけそうになる弱い自分にいつも渴をいれいただきゴールまで導いていただきました。

しかし、マラソンの折り返しにたどり着いた時は、半分以上体は死んでいたと思います。人間の体は本当に不思議なもので暖かい声援に不思議に反応し、ついにはぼろぼろの和田健二をゴールまで運んでくれました。今回は本当に中央会の皆様方に完走をさせていただき感謝の気持ちでいっぱいです。ほんとうにありがとうございました。今回のお礼は来年の壮行会でお返しいたします！

トライアスロン終了後、和田OBが長期出張に出られたため、感想文が雄飛に掲載できかねました。ここに皆様にお届けすべく添付させて頂きましたのでご了承の程お願い申し上げます。
(雄飛編集責任者)